



本日の
プログラム

名古屋大学発ベンチャー：尿中マイクロRNAから、がん種別のリスク判定

サツドラホールディングス(株)代表取締役社長 CEO 富山浩樹 氏
Craif(株)事業開発部企業提携部門 部門責任者 豊田高行 氏

インターアクト活動報告 北海高校インターアクトクラブ

札幌東RCの皆さま、こんにちは。私たちは北海高校インターアクトクラブの2年生部員です。クラブを代表して私たち4名と、顧問の武藤先生で参りました。どうぞよろしくお願ひします。本日は私たちの活動を報告する機会を与えていただき、またペットボトルのキャップもお持ちくださり、誠にありがとうございます。

今年の部員数は、3年生が7名、2年生が4名、1年生が10名、合計21名です。昨年以上に「対面」での活動が再開され、部員の誰もが初めて経験する活動に初めは不安もありました。しかし、1つ1つの活動を終え、ミーティングで振り返りを発表する際には、達成感や次回への改善点など意欲的な言葉が交わされ、充実した活動ができていいることを実感しています。それでは、今年の1月からの活動と8月の東北研修旅行についてご報告します。

<1月から10月までの活動報告>

1月11日、豊平区主催の「げんき雪んこまつり」に参加しました。年齢が低い幼児たちとコミュニケーションをとったり盛り上げたりするのはなかなか難しかったですが、時間をかけて打ち解けようと頑張りました。多くの笑顔を見ることができて嬉しかったです。

2月から3月にかけて、高大連携講座の企画として「社会福祉に関する探究学習」に取り組みました。福祉問題だけでなく、レポートを作成する際のルールやメディアリテラシーなど、今後大学に進学して研究する際に必要となる知識もたくさん教えていただきました。

3月25日には、札幌東RC主催の「ろう者とのフットサル交流会」に参加しました。上手くコミュニケーションがとれるか心配でしたが、簡単な手話・身振り手振り・口の動きで意思を伝えあうことができました。最初から心配しすぎて壁を作るのではなく、何を伝えたいのか、どうしたら伝わるかを考え行動してみることが大切と思いました。障がいに関係なく参加者全員で楽しく遊ぶことができ、大変良い経験となりました。

5月14日には、札幌東RC主催の「ユニバーサルカーリング大会」を見学しました。健常者と障がい者がスポーツを通して区別なく楽しめる機会が、社会のほかの場面にも広がっていくといいなと思いました。

5月27日には、札幌東RCの方々和西區山の手にある知的

障がい者支援施設「花園学院」を訪れました。利用者さんに楽しんでいただけるよう一生懸命練習し、「紙芝居」と「ダンス(ジャンボリミッキー!)」を披露しました。紙芝居では利用者さんが掛け声をかけてくれたり、ダンスでは利用者さんも一緒に踊っていただき、大変貴重な機会となりました。

6月17~18日には、滝野青少年山の家にて「インターアクト年次大会」に参加しました。ホスト校である札幌龍谷学園高校の生徒さんが、工夫を凝らした数多くのプログラムを準備してくれていました。非日常の体験ができ、食事を食べながらの交流会の後に、全員でキャンプファイヤーを囲みました。日が暮れていく薄紫色の空の下、楽しい時間となりました。2日目は野外でのウォークラリーに参加しました。天気も良く自然を五感で感じる事ができ、日頃都会のデジタル社会で生活している私たちにとっては心が癒される企画でした。来年の年次大会は北海高校がホスト校となるので、今回の学びを活かしたいと思います。

7月の学校祭では、例年のクラブ展示から一歩進んだ趣向を取り入れたくて、パラスポーツでもある「ボッチャ」を簡易的なおもちゃで体験してもらうコーナーを作りました。皆さんにパラスポーツやフェアトレードについて少しでも考えてもらえるような取り組みであつたら嬉しいです。また、自分たちにとっても学びとなりました。

9月と10月には本校のオープンキャンパスが開催され、その受付業務を4年ぶりに私たちインターアクト部が担



■本日のロータリーソング

君が代、四つのテスト

2023-2024年度 国際ロータリーのテーマ

「世界に希望を生み出そう」

国際ロータリー会長：ゴードンR.マッキナリー



当しました。クラブの行動目標でもある「笑顔」「挨拶」「他者への思いやり」「感謝の気持ち」をしっかりと体現できた活動となりました。

10月7日には、昨年に続いて「赤い羽根共同募金」の街頭募金活動に参加しました。私たちが呼びかけを行うことで、赤い羽根共同募金を広く人々に知っていただくという役割はしっかりと果たせたと思います。募金を通して小さな子どもから年配の方まで、幅広い世代の方とコミュニケーションをとることができました。

10月15日には小樽で開催された地区大会の青少年並行プログラムに参加し、青少年交換派遣候補生とその受け入れ学生、ローターアクター、そして札幌山の手高校・龍谷学園高校・北海高校のインターアクターたちが集い、一緒に活動しました。プログラムは「クリーン作戦ゴミ拾い」と「ポリオ根絶ポスター絵画の作成」でした。初対面の人とも積極的にコミュニケーションを取り、協力して進めることができたと思います。

< 8月1日～3日東北研修旅行の報告 >

福島県と宮城県仙台・松島への研修旅行に参加させていただきました。2510地区から、5つの高校の生徒19名、顧問の先生5名、インターアクト地区委員長の札幌東RC福見さん、室蘭東RC松永さんの計26名で、JTBの添乗員さんも同行してくれました。

1日目はお昼頃に仙台空港へ到着した後、迎えに来てくださった松韻福島高校の皆さんとバスで交流を図りながら福島に向かいました。高校に到着し、教室で交流会が始まりました。最初にそれぞれの学校の日頃の活動紹介を行い、その後グループに分かれてディスカッションをしました。テーマは「ボランティアを行う際に心がけていること」「ボランティアを通して成長できたこと」または「今後の課題」というものでした。自分の考えを見直す良い機会になりました。その後、福島の高校生から一人ずつ「原発に関して思うこと」を述べてもらいました。ディスカッションが終了した後は福島の高校生さんに感謝を述べ、校舎を見学しながらバスへ向かう途中、高校のグラウンドに立ち寄りしました。そこには放射線測定器が設置されており、福島のすべての小・中・高校に設置されていると聞きました。震災からかなりの年月がたってもなお、こうした状況であることを知りました。また、震災直後には個人用の首からかけることができる測定器をしていたと聞き、とても驚きました。

2日目も松韻福島高校の生徒さんと一緒に行動し、震災学習としていろいろな場所を訪れました。福島県双葉町にある原子力災害伝承館に行き、震災の残酷さや悲惨さを痛感しました。そしてフィールドワークとして被害にあった場所をバスで回り、講師のお話を聞きながら津波の遥か上に行く恐ろしさや命の守り方を学ぶことができました。津波復興祈念資料館「閑上の記憶」では、語り部のお話を聞きながらバスで被災地をめぐる。「頑張ろうとしなくていいから、亡くなった子供たちの分までどうか生きてほしい」という語り部さんの言葉に命の重さ、尊さをより強く感じました。

最終日は松島の方へ行き、自由散策をしました。国宝瑞

巖寺では、長い歴史を肌で感じることができました。楽しい時間を過ごした後は、クルーズ船に乗って語り部さんの災害の教訓を踏まえた命の尊さについてお話を聞きました。津波によって二つに割れてしまった島を見て、改めて津波の恐ろしさを感じました。

2泊3日の研修旅行では多くの交流・学び・体験ができました。この研修旅行に支援をくださったRCの方々や顧問の先生方、関わってくださったすべての皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。この経験をこれからの活動に活かしていきたいと思います。本日は誠にありがとうございました。

